

風はPLCから



PLC（専門的な学習共同体）として、私たちの学びはさらに深まり、いよいよ最後の講義のコマとなる第4タームに入っています。個人で探究していきたいことを焦点化しながら、共に学び合うことを存分に楽しんでいます。

第2号では、主に、第3タームにおける実習について紹介します。

[ストマス:ストレートマスター(学部新卒生)のことです]

高度化実践実習 I プレゼン発表

附属小・中・特別支援学校での実習を通して、学んだこと・振り返ったことについてプレゼン発表を行いました。コロナ禍のため、Zoomでの発表となりました。一人20分の時間の中で、それぞれの学びがよく伝わる充実した発表会となりました。

個人の探究テーマを軸に、これまでの学びを「理論と実践の往還」をキーワードとしてまとめ、発表を行いました。学びが整理されるとともに、今後の探究の方向性を定める上でもよい機会になりました。川田真帆（始良市立帖佐小学校）

院生が自分の探究テーマについての学びを全体にプレゼンし、院生や先生方からフィードバックを貰いました。多種多様な校種、教科から多様な学びができました。

濱田圭真（ストマス）

重点領域実践実習 I ・特別支援教育重点領域実践実習 I

離島・へき地における教育の理解を深めるために、3つの離島へ実習に行きました。



理科の実験

獅子島小・中学校

初日の昼休みから小学生全員と鬼ごっこを楽しみました。学校と地域が密着して教育を行っていることが、子供たちや先生方との会話の中で感じられ、小規模校のよさを生かした教育を実感した日々となりました。

梁瀬加那子（鹿児島市立吉野東小学校）

5日間の実習で、小規模校ならではの教育や小中連携するための情報共有の仕方を学びました。少人数でのメリットを生かした授業を考え、先生方と子どもたちが温かく迎えて下さり、とても充実した実習でした。

中野佑香（ストマス）

毎朝フェリーに乗って獅子島まで向かうのが楽しみで仕方なかったです。離島の併設型小規模小中一貫校ならではの様々な取組を学ぶことができ、今後の自分の探究課題に活かすことができそうです。

南木純一（鹿児島市立南中学校）

三島竹島学園

竹島の名の通り島全体が竹で覆われる竹島学園。極小規模校ではありますが、ICT機器を積極的に活用し他校と遠隔授業を行ったり、島の魅力をSNSで発信したりしているマンパワーに溢れた素晴らしい学校でした。

竹下佳吾（日置市立日吉学園）

ジオ科が創設され、子供たちが来訪者に竹島のガイド・竹島に自生するハマギを活用したハマギプロジェクトなどが行われています。これらは、生徒の自信に繋がっているという話を聞き、子供たちの自己有用感の高まりにつながっていると感じました。

甲野貴之（ストマス）



効果的な ICT 活用, 進んでいます。

三島硫黄島学園

離島ならではの雰囲気味わう事ができ、私自身初めての経験をたくさん得る事ができました。特に、小中一貫校や複式授業について学びたいと考えている人にとってはぴったりの実習となっています。

奥野真輔（ストマス）

離島の小中一貫校での実習ということもあり、少人数指導や学習の個別最適化について考えを深めました。先生方と語り、子供たちと遊んだりしながら離島の教育の良さと課題を実感することができました。

有村昇起（ストマス）

重点領域実践実習Ⅱ・特別支援教育重点領域実践実習Ⅱ

特別支援教育についての理解を深めることを目指し、附属特別支援学校と田上小学校（特別支援学級）で5日間の実習を行いました。

附属特別支援学校

児童生徒の実態を踏まえた授業をデザインし、院生同士が協働してTTの実習授業を行いました。児童生徒に寄り添う先生方、一生懸命に学ぶ児童生徒との関わりを通して、自らの教育観を（再）構築する機会となりました。

入江有希（鹿児島市立長田中学校）

特別支援の免許を持っていない学生は、初めて特別支援学校で観察・授業実践のできる実習でした。個に応じた指導の重要さや児童一人一人の持つ力の大きさを感じ、児童に寄り添うことの大切さを改めて感じた実習となりました。

久富祐（ストマス）



子どもたちの目の高さで、コミュニケーションを大切にしながら授業を進めました。

小免プログラムより

小学校免許取得の授業だけでなく、院の授業でも精力的に学んでいます。

教師の専門性と教育調査研究

そもそも研究とはどのような活動なのかという基礎的なことや、教育調査研究の種類、調査方法などを学び、来年度から本格的に始まる課題探究の準備となっています。楽しい学びができていると感じています。

吉田昂史（ストマス）

ピアノ

弾けるようになる楽しさ、弾けない時の悔しさ両方を感じながら、繰り返し練習を行なっています。できないと思っていた事でも、きっかけや指導者のアドバイスによってできるようになるという事を、身をもって感じる時間となりました。

神窪愛（ストマス）

道徳の授業デザイン

子供たちが道徳的価値について考え、話し合う学習活動を目指し、中心発問の立て方や道徳的価値について考えを深めました。

久木野瑠奈（ストマス）

田上小学校

特別支援学級で実習を行いました。学部生のときは、特別支援学級での実習がなかったので、今後にいかせる貴重な経験になりました。

永仮広大（ストマス）

特別支援学級では、各教科等の学習や学級活動などあらゆる場面で、自立活動の視点から個に応じた丁寧な指導が実践されていたところを学ぶことができました。

山下八代美（武岡台養護学校）



一人一人との対話を楽しみながら、じっくりと学習に取り組みました。

県庁訪問

集中講義「鹿児島における学校教育と教員のあり方」の一環で、県庁に訪問する機会をいただきました。

義務教育課長や企画監といった方々の講話を聞いたり、意見交換をしたりする中で、普段あまり考えることのない教育行政について深く考える機会となりました。広い視野をもつことと「常識を疑う」ことの大切さに気付きました。

村谷薫（ストマス）

教育法規や教育予算は、現場で隣り合わせのものですがあまり意識していませんでした。我々が動くときの根拠を考え直したり、予算を組んでくださっている方々に改めて感謝したりする機会となりました。

太田亮（鹿児島中央高校）



県庁17階会議室におじゃましました。教職大学院で学んでいることと重ね合わせながら話をうかがう中で、公教育に携わっているということを改めて実感しました。

第2号も教職大学院5期生全員の記事を掲載することができました。教職大学院では、本号のように、幅広い学びを得ることができ、とても充実した日々を送っています。残りの日々も、皆で学び合うことを楽しみたいと思います。